１．若手会の名称：

ビーム物理研究会・若手の会

２．著者氏名：

原田寛之、坂上和之

３．著者所属：

日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 副主任研究員、

早稲田大学高等研究所 准教授

４．本文（500 文字以内）：

我が国の未来に必要な要素の一つが科学技術であり、それを担うのが若手研究者や学生である事を国民は疑わないだろう。しかし、学術研究全般と同様にビーム物理分野における若手を取り巻く環境は非常に厳しい。最先端の研究は大型化が進み、大学単体では小規模な研究活動が余儀なくされ、それに伴う研究室数の減少、そして教員や学生数の減少へと繋がっている。さらに、返済義務の奨学金借用による経済的困窮、博士号取得後の研究機関や民間企業における採用枠の少なさが、若手の不安を増殖させ、担い手の減少へ拍車をかけている。その原因は、科学政策や教育政策の不備なのか、日本の財務状況の悪化なのか。否、社会全体が科学者を強く必要としてないからではないだろうか。科学者の必要性や魅力の向上には、科学者の必要性を社会で身近に感じる必要がある。これらの諸問題の改善には、研究機関と大学をより緊密に連携できる仕組みの構築や産業界を巻き込んだ大型基金の設立等が有効ではないだろうか。若手研究者を育成する大学と産業界・研究機関を繋ぐ架け橋をより具体的な形で構築する事で若手が抱える諸問題を緩和させ、日本の科学技術発展の原動力となると確信する。（498 文字）